

References

- BERNHAEUER, M., 1915. Neue Staphyliniden des paläarktischen Faunengebietes. *Wien. ent. Ztg.*, **34**: 69–81.
- 1929. Zur Staphylinidenfauna des chinesischen Reiches. *Ent. Nachr.-bl.*, **3**: 109–112.
- 1933. Neuheiten der chinesischen Staphylinidenfauna. *Wien. ent. Ztg.*, **50**: 25–48.
- 1934. Siebenter Beitrag zur Staphylinidenfauna Chinas. *Ent. Nachr.-bl.*, **8**: 1–20.
- CAMERON, M., 1932. Coleoptera. Staphylinidae. Vol. III. *The Fauna of British India, including Ceylon and Burma*. XIII + 443 pp., 4 pls. London.
- GANGLBAUER, L., 1895. Die Käfer von Mitteleuropa, II. Staphylinoida 1. 880 pp. Wien.
- GRIDELLI, E., 1924. Studi sul genere *Quedius* STEPH. (Col. Staph.). Secondo contributo. Specie della regione paleartica. *Mem. Soc. ent. ital.*, **3**: 5–180.
- ERICHSON, W. F., 1840. Genera et species staphylinorum, insectorum coleopterorum familiae. 954 pp., 5 pls. (pp. 401–954). Berlin.
- SMETANA, A., 1990. Old and new east-Palaeartic species of *Quedius* STEPH. (Coleoptera: Staphylinidae). *Nouv. Rev. Ent.*, (N.S.), **7**: 199–204.
- 1995. Revision of the tribes Quediini and Tanygnathini. Part III. Taiwan. (Coleoptera: Staphylinidae). *Natn. Mus. nat. Sci. spec. Publ.*, *Taichung*, (6), 145 pp.
- STEPHENS, J. F., 1829. The Nomenclature of British Insects; being a compendious list of such species as are contained in the Systematic Catalogue of British Insects, and forming a guide to their classification. London, 68 columns.

Elytra, Tokyo, **24** (1): 59–60, May 15, 1996

刊 行 物 紹 介

Fauna of New Zealand, Ko te Aitanga Pepeke o Aotearoa

南太平洋に浮かぶ島国ニュージーランド(NZ)。怪鳥モア(絶滅種)や巨大昆虫ウエタが生息するこの島は、独自の生物相をもつ地域として知られている。約8000万年前に Gondwana 大陸から孤立した NZ には、コウモリ以外の哺乳類は生息せず、代わりに鳥類が独自の進化をとげてキーウィやモアが現れるほどに多様化した。さらに食植性の大型鳥類が繁栄したことで、植物までもが葉を食べられないように、枝の間に細かく葉を飾るような独特な形態に進化した。このよく知られた事実からも、NZ が独自の生物の進化を進展させた、生物地理学的に興味深い地域であることに、異論を唱える研究者はいない。また、日本と NZ とは、同じ太平洋の周縁にある温帯の国として共通点も多い。分類にたずさわる研究者であれば、扱っている分類群が地球の反対側でどのような進化を遂げたのか、興味のあるところであろう。

そんな魅力のある NZ の節足動物相を、学術的なモノグラフ・シリーズとして出版しているのが、ここに紹介する「Fauna of New Zealand (FNZ)」である。FNZ は、NZ 最大の昆虫研究機関である NZAC (The New Zealand Arthropod Collection) を統轄する Manaaki Whenua-Landcare

Research (以前のDSIR) から、年に2, 3冊ずつ出されており、1982年に創刊されて、'95年までに全34編が出版されている。分類群別の内訳は、蛛形綱(ダニ目3編)、甲殻綱(ヨコエビ目1編)、昆虫綱(カマアシムシ目1編、カワゲラ目2編、カマキリ目1編、アザミウマ目2編、カメムシ目3編、ハエ目4編、コウチュウ目7編、ハチ目7編、チョウ目3編)となっている。

鞘翅類関係は7冊あり、以下のとおり。

No. 2	Osoriinae (Staphylinidae).	H. Pauline McCOLL, 1982, 96 pp.	\$18.60
No. 3	Anthribidae.	B. A. HOLLOWAY, 1982, 272 pp.	\$41.00
No. 6	Hydraenidae.	R. G. ORDISH, 1984, 64 pp.	\$18.60
No. 26	Tenebrionidae: catalogue of types and keys to taxa.	J. C. WATT, 1992, 70 pp.	\$27.95
No. 28	Larvae of Curculionoidea: a systematic overview.	Brenda M. MAY, 1993, 226 pp.	\$55.00
No. 29	Cryptorhynchinae (Curculionidae).	C. H. C. LYAL, 1993, 308 pp.	\$65.00
No. 34	Anthicidae.	F. G. WERNER & D. S. CHANDLER, 1995, 64 pp.	\$26.50

ほとんどが種レベルの再検討を行なったモノグラフで、図も多く、ほぼ全種の分布図がつけられている。中にはカタログや属までのレヴィジョンもあるが、その場合でも全体図がふんだんに盛り込まれ、眺めているだけでも楽しい出版物になっている。内容は号によっても異なるが、執筆陣がNZのみならず英語圏の著名な分類学者により占められていること、また専任のFNZシリーズ編集者 C. T. DUVAL氏による厳しいチェックが入っていることから、モノグラフとしての高いレベルが維持されている。全体図はNZAC専属のイラストレータ D. HELMORE氏によるものが多く、統一された図と体裁はシリーズを格調高く使いやすいものになっている。

ちなみに私がNZACを95年3月に訪れた際には、8人の昆虫学者が働いており、甲虫ではJ. KLIMASZEWSKI博士(ハネカクシ)とA. LAROCHELLE氏(ゴミムシ)の2人が現役であった。G. KUSCHEL(ゾウムシ)、J. C. WATT(ゴミムシダマシ)両博士とB. M. MAY女史(ゾウムシ)は、退官後Research Associatesになっているようで、ときおり出てきていた。D. HELMORE氏とC. T. DUVAL氏はFNZの仕事を中心にしているようで、FNZがLandcare Res. の重要な事業の一つに位置づけられていることがわかる。価格相応のよい出版物だと思う。\$はU.S.\$で計算。

連絡先は：Manaaki Whenua-Landcare Research, Biodiversity & Conservation Group, Mount Albert Research Centre, Private Bag 92170, Auckland, New Zealand. Tel: +64-9-849-3660; Fax: +64-9-849-7093.

購入・FNZについて：Mr. C. Tymone DUVAL, Series editor "Fauna of New Zealand": Email: DuvalCT@landcare.cri.nz

NZの甲虫について：Dr. Jan KLIMASZEWSKI, Research Scientist in Coleoptera; Email: KlimaszewskiJ@landcare.cri.nz

(小樽市博物館・大原 昌宏)